

綿の里親を募集、収穫後に綿繰り体験などに活用

～今年 は 地元の 農業 活性化 団体 と も 協働 で 和綿 を 栽培 ～

河内長野市立ふるさと歴史学習館（愛称・くろまる館）では、かつて、市域で盛んに育てられていた河内木綿の和綿を普及啓発することで、河内木綿を身近に感じて、郷土の歴史文化に興味を持ってもらうため、市内小中学校の体験学習などで綿繰り体験などを行っています。

使用する綿を安定的に確保するための「綿の里親プロジェクト」も今年で5年目。市民などから綿の里親を募集して、綿を育成、その収穫量の半分を同館に提供してもらいます。綿は綿繰り、綿打ち、糸紡ぎ体験に活用しています。同館では、5月5日に種をまき、苗を育てています。

現在までに約40名の個人（市内外）、4団体（上高向地区農業活性化協議会、市立林業総合センター、市立三日市幼稚園、NPO法人里山倶楽部）から里親の応募（総数約800株）がありました。6月の苗の配布当日には、ガイドブックに基づき育て方を説明し、本葉に育った苗を配布します。綿の木は、8月中旬には黄色の花をつけ、9月下旬から順次綿の実も収穫できます。里親には、成長時期に合わせて「綿の里親ニュース」（芯止め、害虫防止、収穫のポイントなど）も届けます。

今年 は、くろまる館の 声掛け に 賛同 した 同館 近く に ある 上高向地区 農業 活性化 協議会（垣内俊夫会長、総会員9人）も綿の里親に初参加。同協議会が管理する「奥河内くろまろの郷」に隣接する体験型農園「くろまるファーム」で栽培（約300株）することになっています。

※同協議会は、農業の後継者不足による遊休農地の管理をめざすとともに、体験型農園により農業の楽しみを知ってもらおうと、平成26年4月に発足、同ファーム近くの田んぼで川の水での米づくり（ホタル米）のほか、昨年秋から同ファームでサツマイモ、玉ねぎ、ジャガイモなどの収穫体験型農園を展開しています。

●配布日 平成28年6月10日(金)、12日(日)を予定

※上高向地区農業活性化協議会への苗の配布は、6月下旬を予定。

●配布場所 河内長野市立ふるさと歴史学習館（愛称・くろまる館）

問い合わせ： くろまる館 TEL 0721-64-1560